

## Ⅱ章 資料収集・保存

---

- 1 資料収集と整理
- 2 資料室における相談業務・情報発信
- 3 震災資料の活用
- 4 資料を通じた交流・ネットワーク

## 1 節 資料収集と整理

資料室で保管する震災資料は、「一次資料」（阪神・淡路大震災の被災状況を物語るもの、被災地の復旧・復興過程で使用・作成されたものなど、震災に直接関連する資料）と「二次資料」（阪神・淡路大震災及びその他の災害や防災関連の図書等刊行物）に分類される。

### 1 項 一次資料の収集

一次資料には、平成 14 年 4 月のセンター開館以前の事業で収集されてきた約 16 万点の資料と、開館後センターによる調査・収集活動で集めた資料がある。

〔開館前〕

平成 7 年 10 月から兵庫県の委託を受け（財）21 世紀ひょうご創造協会によって収集事業が開始され、平成 10 年 4 月からは（財）阪神・淡路大震災記念協会が、収集事業を継続するとともに、公開基準等を検討した。こうした中、平成 12 年 6 月から約 2 年間にわたり、兵庫県によって「緊急地域雇用特別交付金事業」を活用した大規模な震災資料の調査事業が行われ、平成 13 年度末までに約 16 万点の資料が収集された。

〔開館後〕

センターにおいて、開館前に収集された資料を引き継ぐとともに、新規の資料収集調査を進めている。

令和 7 年度に行った資料収集調査は、新たな所在調査と既存調査を含め計 18 回で、令和 8 年 3 月末現在で、一次資料提供者件数は 5,145 件、資料点数 199,339 点となっている。

### 2 項 一次資料の公開

一次資料については、「震災資料の取り扱いに関する要綱」に基づき、資料提供者の意向を尊重するとともに、プライバシーの保護などに慎重な配慮をしつつ、原則としてその公開を行うこととしている。センターが寄贈・寄託を受けた一次資料は、「公開に当たり資料提供者の許諾を必要としない資料（センター一任資料）」と「公開に当たりその都度資料提供者の許諾を必要とする資料（別途協議資料）」とに区分している。

そのうち、センター一任資料については、「公開可（そのまま公開）」、「条件付可（個人情報等を消去して公開）」、「公開不可（公開困難）」、「保留（公開判別未了）」のいずれかに公開判別を行った上で、可能なものについて公開している。

### 3 項 一次資料の保存

#### 1 環境調査・管理・保存

##### （1）資料保存環境調査

原資料の劣化を防ぎ、収集時の状態を維持・保存していくためには、資料保管に適した環境を整えることが必要である。このため資料室では、資料収蔵スペースにおいて年 1 回の資料保存環境調査を実施し、調査結果に基づき対策を講じている。令和 7 年度の調査は資料保存環境の変化を調べるために、前年度とほぼ同じ箇所（西館 3 階展示フロア内の収蔵スペース、5 階の作業スペース、7 階の 2 つの収蔵庫）で実施した（令和 7 年 8 月 7 日～9 月 19 日）。その結果、昆虫類や真菌類が捕獲された場所が確認されたため、定期的な清掃や殺虫・殺菌処理などを実施し、資料保存に適した環境の維持に努めている。

### (2) 温度・湿度データ管理

震災資料はさまざまな性質の資料が混在しているため、すべての資料に適合的な温湿度として、温度 20 度前後、湿度 40 ～ 50 % 前後を、年間を通じて維持する必要がある。このため、3 階収蔵スペースと 5 階、7 階収蔵庫に温湿度データロガーを配置し、計測結果に基づいて空調設備や除湿器による調整及び保存箱の内部に湿度を安定させるための調湿紙を貼り付けることにより、温度・湿度の安定化を図っている。

### (3) 収蔵スペースにおける殺虫処理

3 階収蔵スペースは、資料保存に適した温湿度管理が困難な展示観覧フロアにあり、害虫が発生しやすく、定期的な殺虫燻蒸処理が必要であった。このため、平成 29 年度から、文化財害虫に対して殺虫効果のある薬剤の散布を実施している。令和 7 年度は、休館日にあたる令和 8 年 3 月 9 日（月）に実施した。

## 4 項 一次資料の利用

### 1 閲覧

令和 7 年度の閲覧申請件数は 7 件、205 点であった。主に、大学教員や学生等による研究・調査、震災関連報道や展示に活用された。また、特別利用申請件数は 3 件で、研究・調査等を目的とするものであった。

### 2 複写・撮影

令和 7 年度の複写申請件数は 0 件、撮影申請件数は 8 件であった。大学教員や学生・大学院生などによる研究を目的としたものが多かった。また、震災関連の報道にも利用された。

### 3 貸出

#### (1) モノ資料

資料室では、博物館等での展示のために震災資料の館外貸出を行っており、令和 7 年度の震災資料館外貸出件数では 75 件であった。

令和 7 年度に貸出を行った機関と展示期間は次のとおりである。

- ・兵庫県立歴史博物館常設展示（4 月 1 日～3 月 31 日）
- ・南丹市立美山小学校（5 月 27 日～6 月 13 日）
- ・広島県立歴史博物館（9 月 19 日～11 月 24 日）
- ・大阪関西万博関西パビリオン兵庫県ゾーン（9 月 12 日～9 月 23 日）
- ・公益財団法人日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック（9 月 7 日）
- ・松竹株式会社（12 月 5 日～1 月 4 日）



広島県立歴史博物館展示



大阪関西万博関西パビリオン  
兵庫県ゾーン展示風景

## (2) 写真資料

震災の教訓を後世に伝え、防災に役立てる目的に限り、兵庫県広報課等から提供された写真をデータ化して貸出を行っている。令和7年度は、写真データの貸出が19件、160枚であった。また、平成27年8月から、一部の写真データのダウンロード利用が可能となっている。令和7年度は37件927枚の写真データがダウンロードされた。貸出を行った写真資料は、地方自治体で作成する展示パネルや学校における防災教育などに活用されたほか、テレビや新聞をはじめとしたメディアにおいて、阪神・淡路大震災や防災関連の特集で利用された。

## 5項 二次資料（図書等刊行物）の収集

二次資料については、(財)21世紀ひょうご創造協会、(財)阪神・淡路大震災記念協会から引き継いだ約23,000点の震災関連資料に加え、阪神・淡路大震災や、その他の災害（地震・津波など）の資料、防災関連の資料、その他センターとして必要な参考文献について収集しており、令和7年度末で、46,265点を所蔵している。

## 2節 資料室における相談業務・情報発信

### 1項 相談業務

資料室では、年間を通じて来室、電話、文書、メール等の形態で寄せられる相談に対応している。資料室開設以来の相談件数は、令和8年3月末で累計2,331件となった。近年の動向としては、相談者の専門分野における詳細な情報の提供を希望するケースや、日常で利用できる防災の知識などが書かれた資料の有無を尋ねられるケースが増加傾向にある。令和7年度は阪神・淡路大震災に関する具体的な被害や復旧・復興過程についての質問や、防災教育用のDVD貸出の可否についての質問が目立った。当時の詳細な実態を学び、発信しようとするマスコミ・市民団体・教育機関・一般利用者からの相談や、これと合わせた写真・映像資料の貸出申請も多数寄せられた。なお、資料室では、過去の相談業務内容をデータベースに登録して、同様の質問に迅速かつ効率的に対応できるようにしている。また、他機関との日常的な連携を通じて、震災や防災に関する知見や認識の共有を図り、より的確な情報提供を目指している。

### 2項 ビデオ・DVDの貸出

営利を目的としない防災学習等に関し、学校・団体等へのビデオ・DVD（二次資料）の貸出を行っている。令和8年3月末現在ビデオ59本とDVD168本を貸出用としており、令和7年度は64件（110本）の貸出を行い、7,647人が視聴した。

ビデオ・DVDの貸出先

| 貸出先別      | 件数 | 本数  |
|-----------|----|-----|
| 教育関係      | 24 | 49  |
| 団体        | 29 | 44  |
| 企業        | 3  | 5   |
| その他（個人など） | 8  | 12  |
| 計         | 64 | 110 |

#### 1 貸出先

貸出は学校などの教育関係や、自主防災組織・マンションの管理組合などの団体関係が多い。主に地震についての防災教育や阪神・淡路大震災についての学習資料としての使用が目立つ。近年は自己啓発のための防災学習としての個人利用が増加している。

#### 2 貸出地域

地域別では、これまでと同様に近畿地方が最も多く、続いて関東地方となっている。

| 地域 | 近畿 | 中部 | 関東 | 中国・四国 | 北海道 | 九州 | 計  |
|----|----|----|----|-------|-----|----|----|
| 件数 | 44 | 5  | 10 | 4     | 1   | 0  | 64 |

### 3 貸出ビデオ・DVD

貸出用映像記録の中で貸出回数が一番多かったものはDVD『ビジュアル版 幸せ運ぼう』である。この作品はもともと震災学習用に作成されているため、細かいチャプターに分かれており、目的に応じて映像を選んで再構成できるようになっている。また、付属のCD-Rには副読本や震災当時の新聞記事、写真などが入っており、広く防災教育に活用できるようになっている。この他には、「阪神・淡路大震災創造的復興10年の歩み（改訂版）」など阪神・淡路大震災に関するDVDや、「避難所の開設・運営」「動く・倒れる・飛ぶ・落ちる+割れる」今すぐできる室内安全対策」「能登半島地震から学ぶ今後の地震対策」など防災に焦点を当てたDVDの貸出が多かった。

## 3項 情報発信

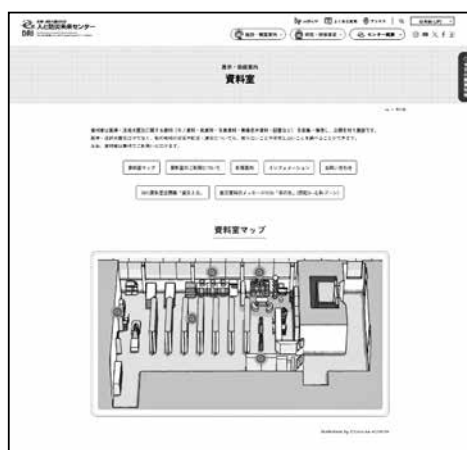
### 1 ウェブサイトおよびインターネット検索

当センターホームページで、収蔵資料の検索ができるようになっている。令和元年5月には、情報検索システムをバージョンアップした結果、初期画面で一次資料は「写真資料」と「モノ、映像音声、文書資料」、二次資料は「図書・雑誌」と「河田文庫」に細分化した検索が可能となった。写真はアルバム単位から1枚単位での検索ができるようになり、検索項目の一部を手入力からプルダウン検索にするなど利便性が高まった。二次資料についても、雑誌情報に加えて、目次を表示することで、資料の内容を推測しやすくなっている。

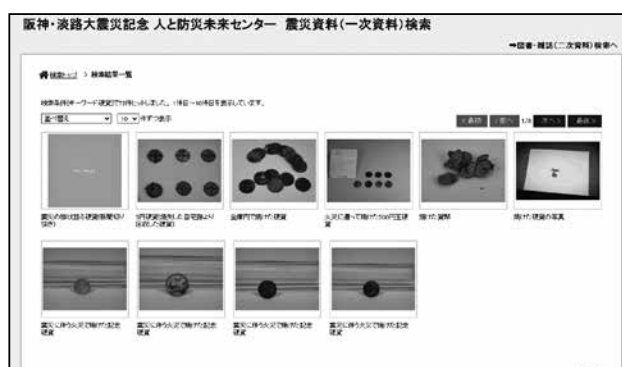
また、平成29年11月からセンターウェブサイト内に一次資料を紹介するコーナー「震災資料語り～ものがたり～」を公開している。各資料が持つエピソードと、当時の状況等の関連情報を掲載し、広く資料の持つ力をアピールする場としている。

令和7年4月には当センターホームページのリニューアルが行われ、資料室の利用案内や情報検索システムへのアクセス、発信する情報について分かりやすくなった。

また、令和7年10月より収蔵品管理システムのリニューアル開発を行い、令和8年4月1日に新情報検索機能を一般公開した。これにより、検索機能及び操作性の向上を図り、利用者の利便性向上につなげた。



<資料室のページ>



<新情報検索機能画面>

## 2 資料室ニュースの発行

資料室では平成15年4月から資料室ニュース(4ページ)を発行している。紙面の内容は、当センター所蔵の新着資料の紹介や、資料室に関する最新情報(資料室で開催するイベントや企画展示の内容など)を中心に、年3回各2,000部を発行した。来館した人のみならず、来館したことがない人にも資料室をより身近に感じてもらえるよう工夫した。

資料室ニュースは、資料室や館内インフォメーションで配布しているほか、センターホームページからもダウンロードが可能である。

資料室ニュース URL: <https://www.dri.ne.jp/library/publication/news/>

### ○令和7年度の特集テーマ

- ・震災30年 資料室特別展(令和7年7月発行、Vol.87)
- ・EXPO2025 大阪・関西万博で震災資料を展示(令和7年12月発行、Vol.88)
- ・資料室 YouTube 開設！(令和8年3月発行、Vol.89)



資料室ニュース vol.87



資料室ニュース vol.88



資料室ニュース vol.89

## 3 Facebook ページの運営

平成27年6月より「ひとぼう資料室」としてFacebook ページを開設した。SNS(ソーシャルネットワーキングサービス)を活用し、展示、刊行物、イベントなどの告知や報告、新規資料の紹介、日々の出来事など、資料室の業務内容や震災資料についての情報を発信した。

(ひとぼう資料室 FB ページ <https://www.facebook.com/dri.archives>)

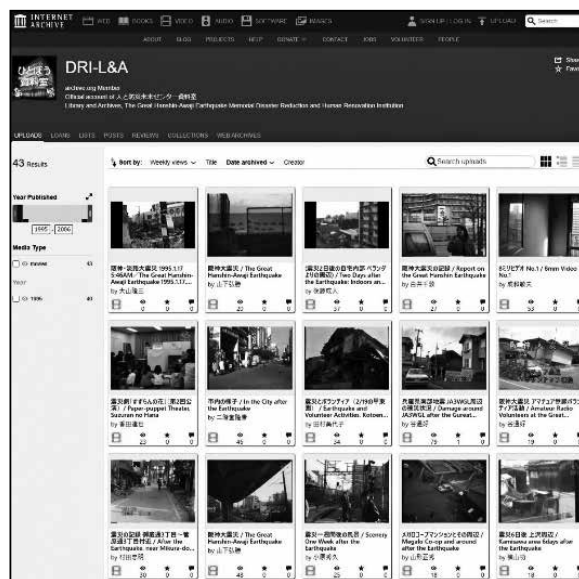
## 4 インターネットアーカイブでの公開と震災ビデオラボの開設

資料室では令和5年7月から、デジタル化した映像資料を順次Internet Archive(インターネットアーカイブ)に登録し、オンライン公開を進めている。Internet Archive(<https://archive.org/>)は、“Universal Access to All Knowledge(あまねく知識への普遍的アクセス)”の提供を掲げる北米の非営利団体で、世界中のウェブサイトの収集・保存活動とともに、巨大な知のリソースとなるデジタルライブラリーの運営を行っている。収蔵資料IDを用いた一貫性のあるURLが使用できることや、コンテンツと関係のないおすすめや広告が出ないこと、デジタル文化情報資源の長期保存がめざされていることなどの理由から、公開用動画をInternet Archive上に置くことにした。

映像資料は原則オリジナルのままオンライン公開しているが、個人情報保護や肖像権の観点から一部モザイク処理や音声処理を施している。令和8年3月末時点での登録本数は

62 本である。

(DRI-L & A Internet Archive ページ [https://archive.org/details/@dri\\_l\\_a](https://archive.org/details/@dri_l_a))



<インターネットアーカイブ ひとぼう資料室ページ>

また、令和5年9月から震災ビデオ変換ラボ（以下、ビデオラボ）を開設した。これにより再生機器がなく見られなくなった震災記録ビデオを、資料室で視聴やデジタル化が可能となった。ビデオラボの機材は無料で使用できるが、使用後のビデオテープ（原本）や複製データは資料室へ寄贈することとなっている。

ビデオラボで再生可能なテープは8ミリビデオ、VHS、miniDVである。使用の際は電話またはウェブサイトの予約フォームでの予約が必要であり、変換サービスは予約者自身が操作する。令和8年3月末時点でのビデオラボの利用件数は18件、寄贈本数は39本である。



<震災ビデオ変換ラボ>

## 5 資料室公式 YouTube チャンネルの開設

資料室では令和7年12月から、資料室公式 YouTube チャンネル「人と防災未来センター 資料室 DRI Library & Archives」を開設した。センター所蔵の映像資料やそれらを基に作成した映像集・展示映像の公開と、資料室企画展の告知を行っている。令和8年3月末時点で8本の映像を公開している。



＜資料室公式 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/@DRI-Library-and-Archives> ＞

### 3節 震災資料の活用

#### 1項 資料室企画展と「震災資料のメッセージ」の開催

人と防災未来センター資料室では、所蔵する震災資料を活用した企画展を年に1度開催している。また、平成25年度からは、センターに寄贈され収蔵庫で保管されている一次資料を、西館3階展示フロアの一角で「震災資料のメッセージ」として紹介している。令和7年度には、6月から「阪神・淡路大震災と映画」と題した「震災資料のメッセージ」展示を、12月からは「命の水」と題した「震災資料のメッセージ」展示と、「震災と火」と題した資料室企画展を、水と火という対照的なテーマが連動する形で開催した。

##### 1 震災資料のメッセージ「阪神・淡路大震災と映画」

被災者の激励や震災復興において映画が果たした役割を主題とし「阪神・淡路大震災と映画」を令和7年6月10日（火）から令和7年12月14日（日）まで西館3階の展示フロアで開催した。

展示内容：

地震で損壊した映画館の写真や仮設住宅などでの映画上映会を知らせるチラシ、神戸で開催された映画祭のパンフレットなどを展示した。また震災後の街で撮影された映画もあり、その一つである『男はつらいよ 寅次郎紅の花』は神戸市長田区で撮影された。そのロケに関する資料群の寄贈を受けていたことから、その中から映画のパンフレットとロケ誘致に関わった人が撮影した映画ロケの風景写真を展示した。



震災資料のメッセージ「阪神・淡路大震災と映画」展示風景

##### 2 資料室企画展「震災と火」と震災資料のメッセージ「命の水」

「水」と「火」に着目して震災当時の様子に遡る企画を行った。令和7年年12月16日（火）から令和8年5月24日（日）まで西館3階の展示フロアでは「命の水」、西館5階資料室では「震災と火」を開催した。

展示内容：

「震災と火」では、阪神・淡路大震災では、「火」が多くの人びとの記憶に深く刻まれたことに着目し、「恐れ」「安らぎ」「祈り」の三つの視点から、焼けたコインや溶けたガラス食器、大釜やだるまストーブ、「1.17 希望の灯」の竹筒や追悼式の写真などを展示、震災と火の関係を見つめ直した。

「命の水」では、被災者を苦しめた様々な困難の一つが水不足であったことに着目し、誰かの命を支えるために届けられた当時の「水」が、そのまま入った状態で保管されている容器などを展示することで、「水」を届けた人々の思いや、平素には当たり前であるライフラインの大切さについて伝えようとした。



資料室企画展「震災と火」展示風景



震災資料のメッセージ「命の水」展示風景

## 2項 「震災 30 年 資料室特別展」の開催

阪神淡路大震災 30 年を迎え、西館 1 階ロビーで特別展を行った。展示期間は前期と後期に分けて、前期は令和 7 年 6 月 24 日（火）から令和 7 年 7 月 21 日（月）まで、後期は令和 7 年 9 月 17 日（水）～令和 7 年 11 月 3 日（月）まで開催した。

展示内容：

阪神・淡路大震災による駅・鉄道の被害が、市民生活における物理的・心理的断絶をもたらしたことに着目し、それまでの日常生活では機能していた当たり前のものが、大きな被害を受けて本来の役割を果たさなくなったとき、それを利用していた人々の生活はどのような変化を余儀なくされたのかという問いを立て、日常の回復のために尽力した人々の歩みについて紹介しようとした。



「震災 30 年 資料室特別展」展示風景

## 3項 夏休み防災未来学校における取組

### 1 「なりきり！震災資料専門員」

資料室では、センターの「夏休み防災未来学校 2025」の一環として、震災資料専門員の業務体験を通して阪神・淡路大震災について学ぶと同時に、「震災資料の収集・保存」というセンターのミッションの意義や価値についても考えてもらう、「なりきり！震災資料専門員」を実施した（7 月 21 日）。

参加者は、グループごとに配られた写真資料を当時の地図や情報をもとに調査して、その資料の冊子づくりに挑戦した。グループで協力しながら、資料の調査や発表ができた。また、普段は立ち入ることのできない収蔵庫を見学し、震災資料の状態を見たりや震災当時の新聞を閲覧した。例年とは異なり、保護者同伴で行われ、子ども同士・親子・親同士でコミュニケーションが活発になっていたことが 2025 年度「なりきり！震災資料専門員」の特徴といえる。



保護者同伴で課題に取り組む風景



記念撮影

## 2 「夏休み防災図書コーナー」

「夏休み防災未来学校 2025」の一環として、令和7年7月15日(火)～9月7日(日)まで、夏休みの課題である読書感想文をきっかけに防災について考えてもらうため、小中学生を対象に防災に関する児童向け図書の貸出を行った。読書感想文の執筆を助けるワークシートを用意し、資料室内に読書感想文作成ブースを設置した。

## 4節 資料を通じた交流・ネットワーク

### 1項 他機関との連携事業

資料室では、他機関との連携により震災資料の利活用促進を図るため、令和3年10月1日から「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）と連携している。ひなぎくは、「東日本大震災に関するあらゆる記録・教訓を次の世代へ」をコンセプトに、被災地の復旧・復興事業、今後の防災・減災対策や学術研究・教育等に活用されることを目指す震災の記録等のポータルサイトで、平成25年3月7日から公開されている。この連携により、当センターで所蔵している阪神・淡路大震災に関連する資料を『ひなぎく』でも検索できるようになっており、利活用が全国規模に広がっている。



ひなぎくトップページ (<https://kn.ndl.go.jp/#/>)

### 2項 震災資料の研究会への参加

資料室では、震災資料に関する研究会において、資料室業務の課題および震災資料の活用に関する発表を行い、他機関との交流を図っている。

令和7年度に参加した研究会は次のとおりである。

- ・第15回 震災資料の収集・公開に係る情報交換会（10月27日）

### 3項 他機関によるセンター視察

資料室では、大学や各種団体などの他機関から視察を受け、震災資料の収集・保存について説明を行うとともに、資料の保存・活用等に関する意見交換や、阪神・淡路大震災に関する情報提供等の相談を受けている。

令和7年度に訪問を受けた団体は次のとおりである。

- ・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科（5月1日）
- ・地域安全学会春季大会 DRI ツアー（5月16日）
- ・岐阜女子大学大学院文化創造学研究科（7月12日）
- ・兵庫県立大学看護学部（7月29日）
- ・石川県立和島高等学校（9月25日）
- ・東日本大震災・原子力災害伝承館（9月30日）
- ・兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科（10月18日）
- ・韓国国立災難安全研究院（10月23日）
- ・JICA「博物館とコミュニティ開発」（12月10日）

- ・ 東京大学名誉教授根本彰先生（12月12日）
- ・ シカゴスクール（12月17日）

### 4項 センターから他機関への視察等

資料室では、類似施設や関係機関を視察し、専門職員と意見交換を行い、課題の共有や連携強化を図るとともに、資料の取扱いや防災に関するセミナー・研究会に積極的に参加し、資料室の日常業務に生かす知識を深めている。

令和7年度の活動は次のとおりである。

- ・ 広島県立歴史博物館（11月19日）
- ・ 広島市豪雨災害伝承館（11月19日）
- ・ 広島平和記念資料館（11月20日）
- ・ 大阪市立自然史博物館「3Dプリンタ研修」（2月5日～2月6日）
- ・ ひめじ防災プラザ（2月26日）
- ・ 兵庫県立歴史博物館「博物館資料取扱研修」（2月26日）
- ・ 立命館大学歴史都市防災研究所「東日本大震災15年シンポジウム」（3月11日）